

## 米国のバイオ燃料事情



現在の石油関連インフラを使用して

給油所で合法的に供給するには

米国エネルギー省(DOE)が今年 13 日に、2009 年米国再生・再投資法に基づき、先進的なバイオ燃料の研究および自動車燃料供給インフラの整備を助成すると発表しました。

産官学が共同でバイオ燃料技術の商業化に取り組むために組織された National Alliance for Advanced Biofuels and Bioproducts (NAABB) および National Advanced Biofuels Consortium (NABC)に約 7800 万ドルを助成します。

NAABB は藻を原料とするバイオ燃料の製造技術に取り組みます。(4400 万ドル)

### そしてNABCは

DOE の国立再生可能エネルギー研究所(NREL)およびパシフィック・ノースウェスト国立研究所(PNNL)の主導の下で、現在の石油関連のインフラをそのまま利用して輸送、給油できるバイオ燃料に取り組みます。(最大 3380 万ドル)

具体的にはバイオマスから炭化水素を製造する技術を開発します。  
炭化水素は石油の成分なので現在のインフラで取り扱えます。

NABC には民間から Albemarle、Amyris Biotechnologies、BP Products North America、Catchlight Energy、Pall、RTI International、Tesoro、UOP および Virent Energy Systems が参加しています。

Amyris Biotechnologies は 2009 年 7 月 7 日付の本レポートで紹介しました。

[http://www.eneos-sohken.co.jp/library/files/20090707\\_web.pdf](http://www.eneos-sohken.co.jp/library/files/20090707_web.pdf)

Catchlight Energy は、Chevron と Weyerhaeuser(森林製品の製造・販売・流通大手)が折半出資する合弁企業で、森林廃材等から炭化水素を製造する技術を開発しています。

(Web 版)「世界のエネルギーの話題」(2010 年 1 月 29 日)

Pall は、ろ過・分離・精製技術を有し、UOP が昨年 10 月に DOE から 150 万ドルを得て実施中のバイオマスから熱分解油(バイオ原油)を製造する技術開発プロジェクトに参加しています。

RTI International は、昨年 10 月に DOE から約 300 万ドルを得て、Archer Daniels Midland、ConocoPhillips および Albemarle (石油精製触媒大手)と共同で、バイオマスを急速熱分解してバイオ原油を製造し、さらに輸送用燃料にする技術を開発しています。

Virent Energy Systems は、Royal Dutch Shell と共同で、2008 年から 5 カ年計画で、植物の糖質から炭化水素を製造する技術を開発しています。

## ひとこと

米国の給油所の給油設備は、ほとんどがエタノールを 10%まで混合できる認定品です。

10%を超えるエタノールを混合したガソリンを合法的に提供するには、それが可能な認定品に交換しなければなりません。

DOE はそのことを念頭に置いているようです。

(YY)

\*\*\*\*\*

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニューズワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)および Web で入手した多数の情報を比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)